**生徒情報の管理と活用**

《 学校経営の要諦（ⅩⅢ）》

**◆　これからの時代変容の中で，生徒情報の管理と活用について特段の整理・対応が必要になる**

◎　ICT環境の一層の進展　⇒　《情報の活用》の重要性・有効性が格段に高まると考えられる

◎　《生徒情報》の収集の仕方・保管の仕方・活用の仕方を統括管理する部署・担当者の特定

**◆　個人情報の守秘の在り方について，組織的な《安全管理・共通認識》が重要**

◎　〔例〕　守秘ランクAの特定・・・部署の特定・活用者の特定・パスワード設定が必要なもの

守秘ランクBの特定・・・校内ラン内で安全管理が機能しているもの

守秘ランクCの特定・・・本人同意があれば，（外部対応を含めて）活用可能なもの

**◆　《組織的な活用》を前提とした活用ルールの「見える化」も重要**

　◎　《共有基礎データ》の確定・・・生徒の状況・種々の力の水準などの基本データの特定

⇒　〔定番データ〕

◎　部署からは「素データ」を出すのではなく，意義・活用方法を整理した「有効データ」を出す

**【生徒に関する個人情報の例】**

〔A〕　基本情報　・・・　名前・住所・保護者など

〔B〕　個人に関する情報　・・・ ①特に入学時把握データの活用

　　　　　　　　　　　　　　　　　 　　　　②継続データ・蓄積データの意義

〔C〕　学習成績等の情報　・・・　数字・記号類と記述表記類の位置付け

〔D〕　特別活動・部活動等の情報　・・・　記述内容・方法の統一

**※「校務支援システム」のデータとの相関性・活用工夫の吟味**

【留意点】

**①　入学時のデータは，集約項目の吟味だけでなくスピードも大事な要素になる**

＊中学校からの引継情報類　　＊入試データ類　　＊アレルギーなどの生活上の留意情報

＊友人関係・メンタル面・ジェンダー面などの情報　など

　　　　⇒　端末機器などを活用して，集約方法の工夫・スピード化

　　　　⇒　入学時面談などで確認する場合の留意事項の「見える化」（組織的対応の重要性）

**②　進路希望などの現在時点情報などの有効活用**

　　　　⇒　情報を共有・確認できることにより，学校全体としての指導に活かす工夫

**③　「鵜呑み理解」の排除**

　　　　⇒　校内での情報，本人からの情報でも，「鵜呑み」することなく，吟味の姿勢が重要

**④　扱い方によっては「マイナス情報」になる可能性のある情報については特段の注意が必要**

（令和４年２月１日）